

# 「農業」の労働災害を防止しましょう。

## 労働災害発生状況

## 八幡浜労働基準監督署

八幡浜労働基準監督署管内（八幡浜市 大洲市 西予市 伊方町 内子町）の労働災害（休業4日以上  
の死傷者数）は、中長期的には減少していますが、近年は増減を繰り返しており、減少傾向にあ  
りません。特に「農業」は近年、毎年20件程度の労働災害が発生し、昨年は業種別で製造業につ  
き発生件数となっており、その防止を図ることを、当署の重点対策としております。

図1 主要業種別労働災害の推移  
（休業4日以上死傷者数 八幡浜署管内）

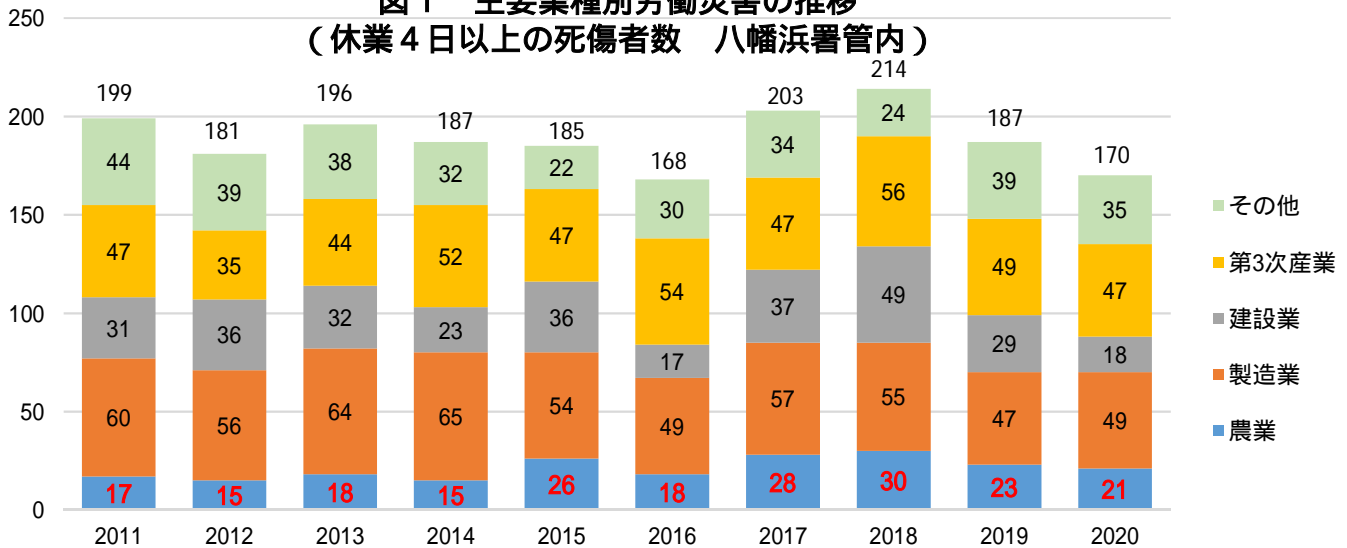


図2 主要業種別労働災害発生割合  
令和2年 八幡浜署・愛媛県下

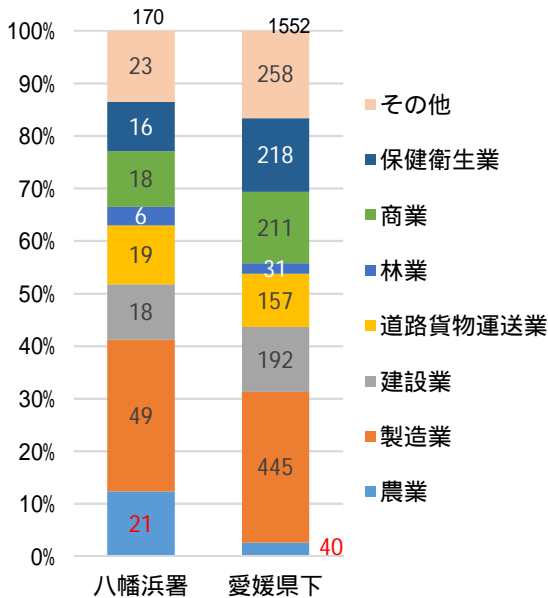
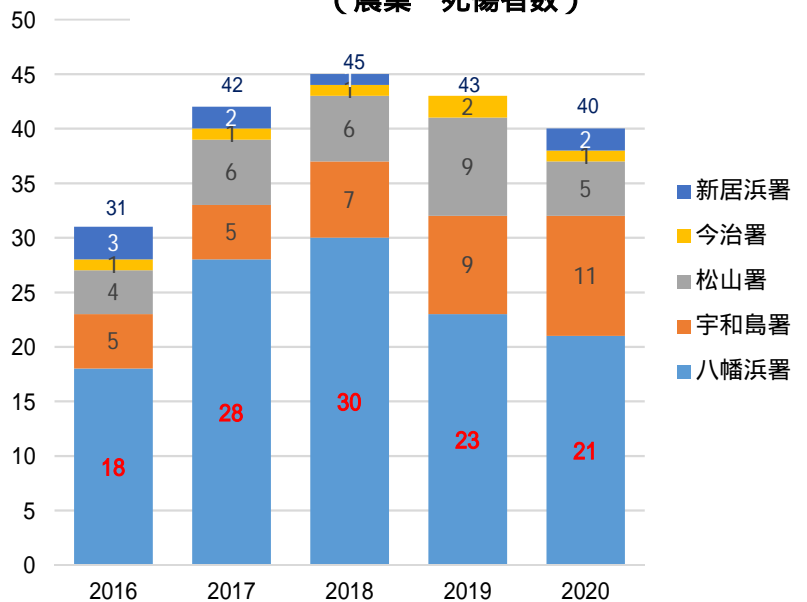


図3 愛媛県下監督署別労働災害の推移  
（農業 死傷者数）



八幡浜署管内の農業での労働災害が全産業に占める割合は、2020年（令和2年）は 12.3% であり、製造業（28.8%）に次ぎ、建設業（10.6%） 道路貨物運送業（11.2%） 商業（10.6%）を凌ぐ発生状況となっている。なお、2019年は12.3%、2018年は14.0%を占めている。

県下の農業での労働災害は、2020年は40件であり、全産業に占める割合は 2.6%であった。当署管内での農業の労働災害の発生比率は高率である。

農業の労働災害発生状況を県下の監督署別で見ると、当署の占める割合は2020年が52.5% 2019年が53.5% 2018年が66.7%で半数以上が当署管内で発生しており、当署の労働災害発生状況の特徴となっている。

# ○八幡浜署管内の農業で発生した労働災害の特徴 1

- ・ 農業は、2016～2020年の5年間（120人）を集計
- ・ 全産業は、2020年（170人）を集計

図4 主要事故の型別発生比率  
(農業・全産業 数値は人数)

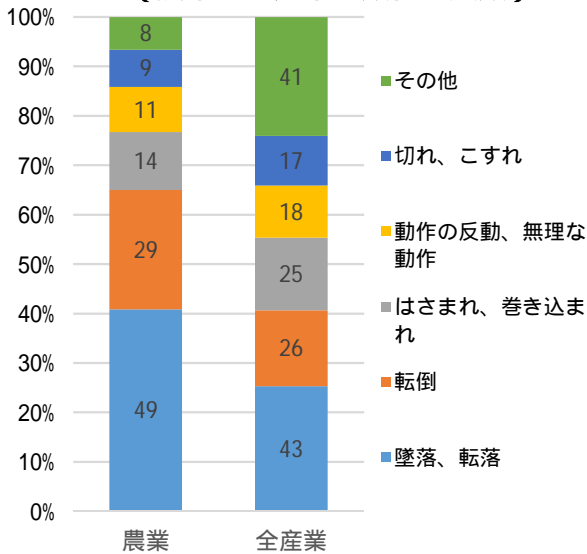
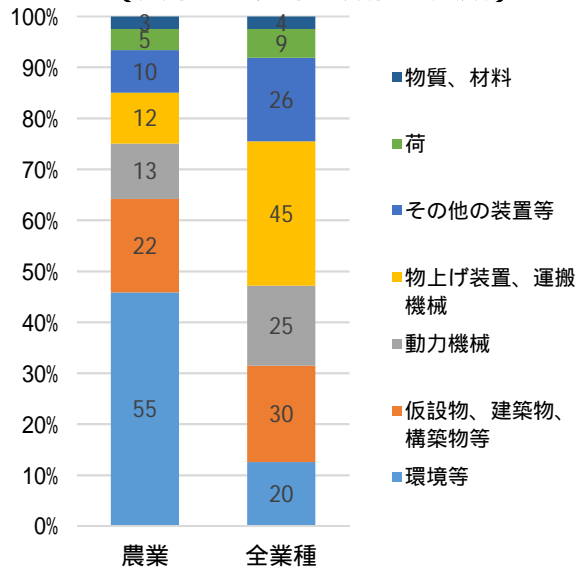


図5 主要起因物別発生比率  
(農業・全産業 数値は人数)



当署管内の農業で発生した労働災害を、全産業の状況と比較すると以下の特徴があります。

- ・ 主要事故の型別では、「墜落・転落」が最も多く全体の40.3%を占め、次いで「転倒」が24.2%となり、全産業の「墜落・転落」25.3%、「転倒」15.3%を大きく上回ります。  
「転倒」は、ほぼ同一平面で転んだ場合をいい、斜面、階段の場合は「墜落・転落」に分類されます。
- ・ 主要起因物別では、「環境等」（主に地山や立木等）に起因する災害が最も多く全体の45.8%を占めており、全産業の11.8%を大きく上回ります。

表 事故の型・起因物別労働災害発生状況  
(農業 人数 過去5年分120人を集計)

事故の型	起因物							総計
	環境等	仮設物、建築物、構築物等	動力機械	物上げ装置、運搬機械	その他の装置等	荷	物質、材料	
墜落、転落	26	13	1	2	6	1		49
転倒	18	9		2				29
はさまれ、巻き込まれ	1		5	7		1		14
動作の反動、無理な動作	5				2	3	1	11
切れ、こすれ			7		2			9
激突	2							2
有害物等との接触							1	1
崩壊、倒壊	1							1
踏み抜き							1	1
激突され				1				1
その他	2							2
総計	55	22	13	12	10	5	3	120

当署管内の農業で発生した労働災害を、事故の型と起因物別にクロスで集計しました。

最も多いのは「環境等に起因する墜落・転落」災害の26人で、全体の21.7%を占めています。ついで、「環境等に起因する転倒」災害（18人、15.0%）、「仮設物、建築物、構築物等（主に建物内）に起因する墜落・転落」災害（13人、10.8%）となっています。

また「動力機械に起因する切れ・こすれ」災害、「物上げ装置運搬機械（主にフォークリフト、トラック等の車両）に起因するはさまれ・巻き込まれ」災害も相当件数発生していますので注意が必要です。

## ○八幡浜署管内の農業で発生した労働災害の特徴 2

- ・ 農業は、2016～2020年の5年間（120人）を集計
- ・ 全産業は、2020年（170人）を集計

図6 休業見込み日数別発生比率  
(農業・全産業 数値は人数)

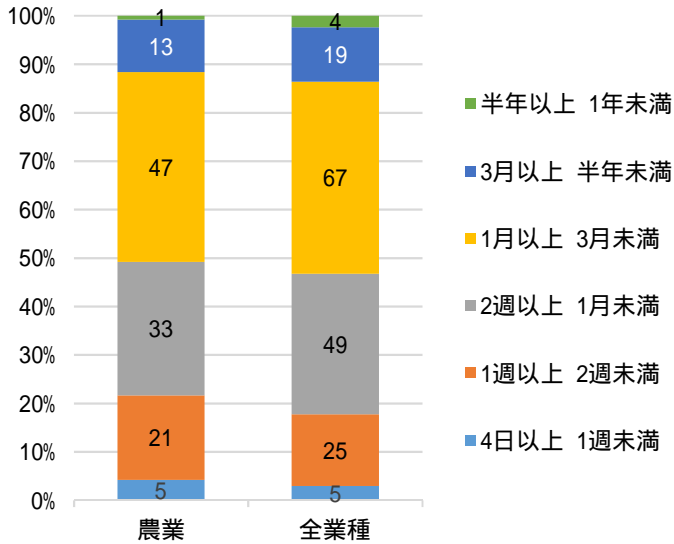


図7 年齢階層別発生比率  
(農業・全産業 数値は人数)

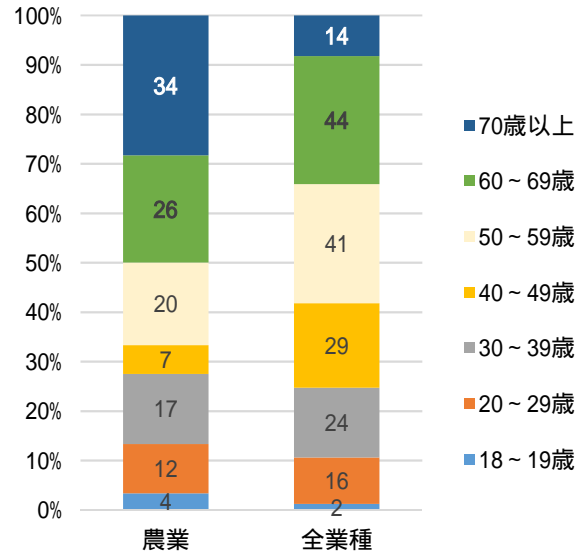


図8 傷病性質別発生比率  
(農業・全産業 数値は人数)

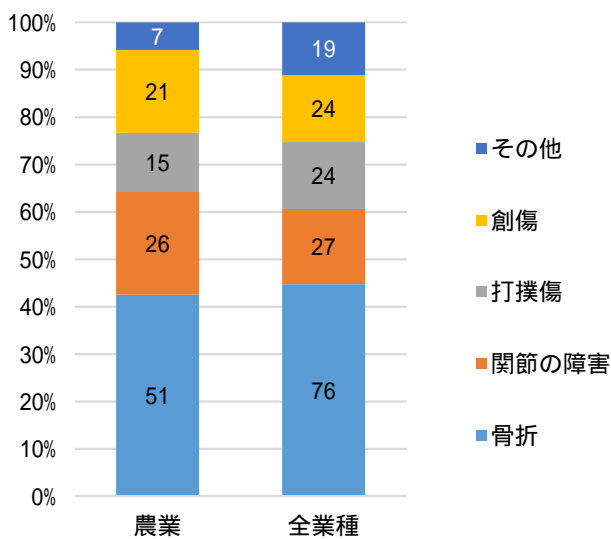
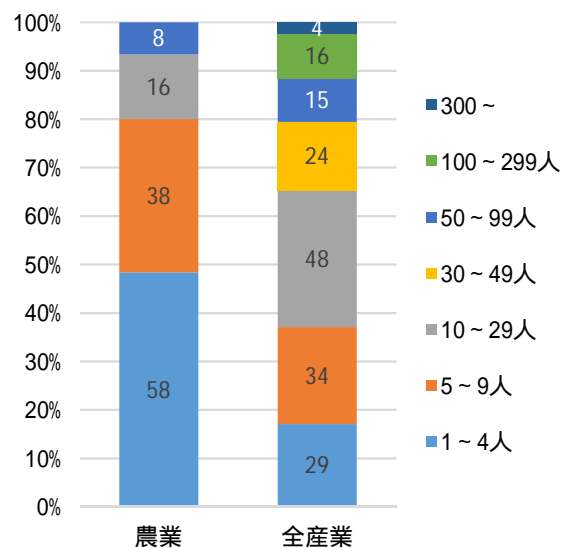


図9 事業場規模別発生比率  
(農業・全産業 数値は人数)



- ・ 図6 休業見込み日数では、「1月以上3月未満」が最も多く全体の39.2%を占め、次いで「2週以上1月未満」が27.5%を占めています。全産業と同様の傾向にあります。
- ・ 図7 年齢階層別で最も多いのは「70歳以上」で全体の28.3%を占め、次いで「60歳代」が21.7%で、60歳以上で50.0%を占めており、全産業の34.1%を大きく上回っています。高齢労働者の特性に留意した対策が必要です。
- ・ 図8 傷病性質別では「骨折」が最も多く全体の42.5%を占め、次いで「関節の障害（捻挫を含む）」が21.7%を占めています。全産業と同様の傾向にあります。
- ・ 図9 労働災害が発生した事業場の規模は、5人未満規模が48.3%、10人未満規模では80.0%を占めており、全産業での10人未満規模の比率37.1を大きく上回っています。